

「学校力向上に関する総合実践事業」 ～ICT を効果的に活用した教育の質の向上と業務改善の実践～

函館市立駒場小学校
学級数 8
(校長 前田 知彦)

I はじめに

本校は、令和2年度から「学校力向上に関する総合実践事業」の実践指定校として、包括的な学校改善を推進してきた。今年度から指定地域の中核校として、これまでの取組の成果を踏まえ近隣の小・中学校とともに、学校改善の取組を推進している。

本校は、本事業の大きな柱である

- (1) 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた学校改善
- (2) 「北海道アクション・プラン（第2期）」を踏まえた、質の高い教育活動を持続的に行う「手引 Road」を活用した働き方改革の実施

を踏まえ、管理職のリーダーシップのもと、全教職員が一つのチームとなって学校改善を進めることができるよう、以下の実践を行い、成果を検証・改善し、組織マネジメントの確立に向けて推進してきた。

II 今年度の実践

1 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた学校改善

(1) カリキュラム・マネジメントの充実・強化

学校の教育目標の実現に向け総合的な学習の時間がその中核になるよう、令和2年度に教科等横断的な視点から、総合的な学習の時間の「全体計画」「年間指導計画」を改善した。

今年度は、各教科との関連を「見える化」するため、「単元配列表」を作成し「育てたい力」を明確にしながら、各教科の学びを充実させるとともに、総合的な学習の時間で更に「育てたい力」を伸長できるよう、実践を進めている。

教科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月				
総合 (70)		自然かんざつたい(35時間) ○ 見つけた生き物を教えよう ○ 調べてもっとくわしくなろう ○ 調べたことをみんなに伝えよう					函館たんけんたい ○ 校区探検をしよ ○ 調べたことをみ				
国語 (245)	ことばに頼しもう	ばめんのながりにをつけて読もう	すじもを立てて読もう	だんらくの要点をつかもう	しりょうを集めて活用しよう	登場人物のせいかくを教えながら読もう	伝えたいことをはっきりさせて書こう	場面のおわりかかわりに思いつけて書こう	絵文字の特長		
社会 (70)	わたしたちのまちと市 まちたんけん・市の様子		はらうんとわたしたちの暮らし スーパーマーケットではたらく人、工場ではたらく人			地いきの安全を守る					
算数 (175)	九九を長なおそろ	時ごく開のせめえ	同じ数をつつけるときに計算を考えよう	大きい数の筆算を考えよう	長い長さをはかって読もう	数をよく見て暗算で計算しよう	わり算を考えよう	1000より大きい数を調べよう	大きい数のかけ算のかたを考えよう	わり算や分数を考えよう	まるい形を調べよう

【第3学年の単元配列表】

(2) 学習指導の充実

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、1人1台端末を効果的に活用し、指導方法や教材等を工夫している。



デジタル教科書に書き込んだり、拡大して図を見たり個々に資料から必要な情報を集めている

【第5学年 社会科「未来をささえる食料生産」から】



自分の様子を撮影してもらい確認したり、友だちからアドバイスをもらったりしている

【第4学年 体育科「器械運動」から】

(3) 教員の資質・能力の向上

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を促進するために、全教員の授業公開による研修やICT活用指導力の向上を図る研修及び外部講師を招聘し先進的な実践を学ぶ研修を計画的に実施している。

総合的な学習の時間における探究的な学びについて外部講師から学ぶ



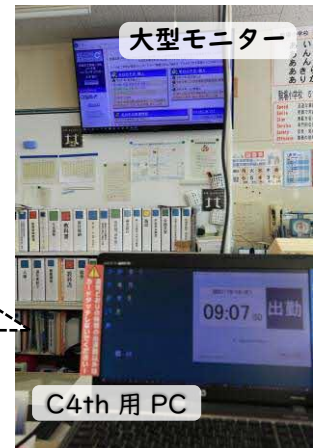
2 「北海道アクション・プラン（第2期）」を踏まえた、質の高い教育活動を持続的に行う「手引 Road」を活用した働き方改革の実施

(1) 改革プロセスの明確化

全教職員の在校等時間を客観的に計測し、出退勤の管理と情報共有を行うことができるよう、校務支援システム C4th 専用のパソコンを職員室に設置した。

また、「手引 Road」の改革プロセスを参考にし、教職員個々の課題意識を高める取組として、在校等時間の記録を活用している。

大型モニターと C4th 専用 PC で、全職員が予定を確認している



(2) 業務の効率化に向けた取組の充実

学級担任が子どもと向き合う時間を確保することができるよう、校務支援システム C4th を活用した情報共有により、朝の打合わせを廃止した。

また、各種会議では会議室に常設している大型モニターを活用し、資料を提示するようにしたことで、印刷や配付に係る労力等が省けた。さらに、即座に修正を加えることが可能になり、よりスピーディーな業務の推進ができるようになった。

常設している大型モニターを使って、画面に示された資料を基に議論を深め、即座に修正を加えている



III 実践の成果 (○) と課題 (●)

- 授業改善をねらいとした校内研修において、一人一回以上の授業公開が計画的に行われ、1人1台端末やデジタル教科書の効果的な活用が進み、授業力を中心とした教員の資質・能力の向上が図られた。
- 校務支援システム C4th による出退勤管理を行ったことで、職員の勤務時間に対する意識が向上し、北海道アクション・プラン第2期の目標である「時間外在校等時間月間 45 時間以内、年間 360 時間以内」を達成できる見通しとなった。
- 校務支援システム C4th や 1人1台端末の活用を促進するため、大型モニターや接続用の機器などの環境整備を進めたことで、短い時間でのミニ研修や分掌間、学年間での情報共有が活発に行われ、より効率的な教職員の業務の推進を図ることができた。
- 外国語専科の加配を活用し、専門性を生かした指導が充実しているが、今後は、系統的な学びが一層高まるよう、小・中学校が連携し、義務教育9年間を見通したカリキュラム・マネジメントの充実を図る取組について検討する必要がある。
- 限られた時間の中で、質の高い教育活動を持続的に行うことができるよう、今後、働き方改革を進めるコア・チームを中心に、業務等の検証・改善を行い、一層の業務の重点化やスリム化を図っていく必要がある。